

**連載32**  
ウガミヤフラ(うんじゅち)は  
鹿児島事務所です!

**地域づくりは楽しい〜長島町**

鹿児島県の最北端に位置する長島町。人口は約一万一千人で、ぶりの養殖は日本一。知名町にとつては、赤土バレイショの生産地であるといった方がなじみがあると思います。

今、その長島町が地方創生で最も注目を浴びています。昨年4月に総務省から長島町に派遣され、全国で最年少の副町長として地方創生関係の取り組みに奔走している井上貴至さんにお話を伺いました。



その地域に住み続けているゆえに地域のいいところや課題にも気づいていない。例えば、長島町には高校がなく中学校を卒業した子どもたちのほとんどが町外に出るため、若者の流出が止まらないという問題がある。この問題についても、地域の方々とひざを交えて語ることで、打開策を見出せた」との事。

その打開策として出たアイデアが「ぶり奨学金」。長島町の特産でもあり、出世魚のぶりにちなんで、将来は地元の牽引役として戻ってきてほしいとの願いがこめられており、ぶり1本の出荷につきいくらかという具合に基金を積み立てていく。行政だけでなく漁協

や金融機関の協力をもらいながら基金を活用し、将来長島町に帰ってきたら元金も含め補てんするというものです。他にも町の特産品を売り込むため、レシピ投稿サイト「グックパッド」に公式ページを設け、主婦らが町の食材を使ったレシピを発信するなど、おもしろい取り組みも行っています。

長島町が短期間でスピード感を持って多くの施策に取り組めたのは、井上さんという外からの「目」を取り入れたことや、町の課題を整理しながら「町の目指すところ」や「協力してもらいたいこと」を明確にしたことだと感じました。

本町の課題も他の自治体と同様なものが多くあります。まち・ひと・しごと創生総合戦略が3月にはできませんが、光輝く未来を築く為には外からの刺激だけでなく、内からの「目」も大切だと感じました。

所長 元栄 吉治

**話題の本、入荷しました!**

『光り輝く未来が、沖永良部島にあった!』

石田 秀輝 / 著 ワニ・プラス

東北大学大学院教授の職を辞し、離島・沖永良部島に移住した著者。そこで「自立型のライフスタイル」を実践しつつ得た知見と、10年間にわたるブログをもとに、環境に配慮しながら心豊かに暮らすための考え方と方法を紹介。



『知らなきゃ損する新農家の税金』

鈴木 武 / 著 農山漁村文化協会

所得税の計算から、譲渡所得税、申告書提出の注意点、消費税を納める際の留意点、平成27年分の決算(平成28年2〜3月申告)以降の確定申告に適用される税制改正のポイントまでを解説。東日本大震災に伴う特例にも触れる。

問 町立図書館 電話(93)4356

<http://www3.town.china.lg.jp/index.html>

